

併設型中高一貫教育の検証 について（報告）

平成27年4月

佐賀県教育委員会

高校教育改革プロジェクト会議

目次

	頁
はじめに	1
1 これまでの検証について	
1 平成21年度報告	2
2 平成23年度報告	2
2 今回の検証について	
1 目的	3
2 位置づけ	3
3 視点	3
3 実態調査について	4
4 検証結果	
1 中高一貫教育の導入時のねらいに基づく検証	
(1) 中高一貫教育導入による一層の教育効果の発現	
① 中高6年間を見通した教育が実践されているか	5
② 生徒一人ひとりの個性や能力の伸長が図られているか	9
③ 中高の生徒間の交流は適切に行われているか	14
④ 市町立中学校などからの入学者にとって併設型高校は魅力ある 学校づくりが行われているか	15
(2) 中等教育における進路選択幅の拡大	
① 中学校進学時の進路選択幅は拡大したか	16
(3) 中等教育全体の活性化	
① 市町立中学校にどのような影響を与えたのか	19
② 地域との連携や協力の状況はどうか	20
2 中高一貫教育校における卒業生の進路状況の検証	
(1) 各中高一貫教育校の進学状況	21
3 中高一貫教育校における入学者募集や受検動向の検証	
(1) 併設型中学校の状況	23
(2) 併設型高校の状況	26
おわりに	29

はじめに

中高一貫教育制度は中央教育審議会第二次答申（平成9年6月）の提言を受けて、「学校教育法等の一部を改正する法律」が平成10年6月に成立し、平成11年4月より、中高一貫教育を選択的に導入することが可能となった。制度発足当初から学校数は年々増加し、平成25年4月現在では中等教育学校50校、併設型318校、連携型82校の計450校となっている。文部科学省は整備目標について、平成11年1月に閣議決定された「生活空間倍增戦略プラン」及び平成13年1月に策定された文部科学省の「21世紀教育新生プラン」において、「当面、高等学校の通学範囲に少なくとも1校整備されること（全国で500程度）」との整備目標を示しており、今後も増加が見込まれる。

こうした全国的な流れの中、佐賀県でも平成15年に県立致遠館高等学校に併設する致遠館中学校が初めて開校した。その後、平成18年に県立唐津東高等学校に併設する唐津東中学校、平成19年に県立鳥栖高等学校に併設する香楠中学校と県立武雄高等学校に併設する武雄青陵中学校が開校し、佐賀県内に4校の併設型中高一貫教育校を設置することになった。（以下、「県立」は省略する）

このうち、致遠館高等学校は、平成21年3月に中高一貫教育校として初めてとなる卒業生を送り出した。その後、唐津東高等学校は平成24年3月に、鳥栖高等学校及び武雄高等学校は平成25年3月に卒業生を送り出し、4校すべての中高一貫教育校において6年間の中高一貫教育を受けた生徒が卒業した。中高一貫教育は、6年間のゆとりを生かし、より豊かな人間性や社会性を育てるという期待がもて、中等教育の選択肢の一つとして、県民の関心も高い。

県教育委員会では、併設型の中高一貫教育校について、これまでの取組を整理し、現状と課題の検証を行ってきた。そして、今後、さらに中高一貫教育校が県民の期待や地域の希望に応えられる学校になるように、教育庁内に設置した高校教育改革プロジェクト会議において協議を重ね、この度、検証結果を取りまとめた。

1 これまでの検証について

県教育委員会では、これまで教育庁内に設置した高校教育改革プロジェクト会議において、中高一貫教育についての現状把握と検証を行ってきた。

1 平成 21 年度報告

平成 21 年 3 月に致遠館高等学校において、中高一貫教育校として初めてとなる卒業生を送り出した。県教育委員会では、併設型中高一貫教育校について、各校で現在取り組まれている特色ある教育実践の成果を高く評価しつつも、県民の期待や地域の希望に沿いながら、今後さらに教育内容の充実・改善を図る必要があると考え、平成 21 年 4 月に教育庁内において高校教育改革プロジェクト会議を設置し、中間的な検証を行った。

検証結果では、成果として「ゆとりある学校生活」、「継続性ある教育指導」、「豊かな人間性の育成」を挙げた。一方、課題としては「地域等との連携の在り方」、「教員の意識改革」、「生徒の目的意識の喪失と学習意欲の低下」、「併設する中学校からの入学者と市町立中学校などからの入学者への対応の違い」、「併設型中学校における入学者の決定方法」、「併設型高校における入学者の決定方法」を挙げた。

取りまとめた検証結果「本県における中高一貫教育校の現状と将来展望について（報告）」は、平成 21 年 7 月の定例教育委員会で報告を行った。

2 平成 23 年度報告

佐賀県における中高一貫教育の導入の意義を踏まえ、「併設型中高一貫教育導入による教育効果」、「中等教育の選択の幅の拡大」、「中等教育全体の活性化」の 3 つの視点から、高校教育改革プロジェクト会議において、これまでの本県での取組について検証を行った。

検証結果では、中高一貫教育導入の教育効果として、「中高 6 年間を見通した教育の充実による学ぶ意欲の向上」、「体験学習や問題解決学習の導入による個性や能力の伸長」、「教育課程の基準の特例等を生かした進路意識の高揚」、「異年齢集団による活動等を通じた豊かな人間性の育成」、「併設型高等学校における併設する中学校からの入学者・市町立中学校などからの入学者に対応した教育」、「中高の教員の協働体制」を挙げた。また、「中等教育の選択の幅の拡大」及び「中等教育全体の活性化」についても成果を報告した。

取りまとめた検証結果「併設型中高一貫教育の検証結果について（報告）」は、平成 24 年 1 月の定例教育委員会で報告を行った。

2 今回の検証について

1 目的

中高一貫教育は、制度そのものにメリットもあればデメリットもある。メリットを最大化し、デメリットを最小化するための不断の検証と取組が必要であり、本県における中高一貫教育導入の成果と課題についての検証を行う。

このことにより、本県の中高一貫教育についてより一層の充実が図られることを目的とする。

2 位置づけ

今回の検証は、平成 25 年 3 月にすべての中高一貫教育校において 6 年間の中高一貫教育を受けた生徒が卒業したこと、平成 26 年 3 月に併設型中学校において抽選を廃止した入学者選抜制度により入学した生徒が高校を初めて卒業したことを踏まえた検証である。

3 視点

(1) 中高一貫教育の導入時のねらいに基づく検証

佐賀県の中高一貫教育導入の目的を踏まえ、本県における中高一貫教育の成果と課題について、検証を行う。

【佐賀県の中高一貫教育導入の目的】

- ・ 中高 6 年間の一貫した教育による一層の教育効果の発現
- ・ 中等教育における進路選択幅の拡大
- ・ 中等教育全体の活性化

(2) 中高一貫教育校における卒業生の進路状況の検証

平成 21 年 3 月に致遠館高等学校、平成 24 年 3 月に唐津東高等学校、そして、平成 25 年 3 月に鳥栖高等学校及び武雄高等学校と、全ての併設型中高一貫教育校が中高 6 年間の一貫教育を受けた卒業生を送り出した。このことを踏まえ、これまでの各校の進路状況を検証する。

(3) 中高一貫教育校における入学者募集や受検動向の検証

併設型中学校や併設型高校の志願倍率の推移や受検生がどういった項目を重視して受検を行ったかなど、中高一貫教育校における入学者募集や受検動向についての検証を行う。

3 実態調査について

本県における中高一貫教育導入による成果と課題を検証するため、以下のとおり実態調査を行った。

【併設型中高一貫教育校への聞き取り調査】

訪問期間 … 平成 25 年 4 月 30 日（火）～ 5 月 7 日（火）

テーマ … 生徒の学習状況や進路状況、6 年間を見通した教育、市町立中学校などからの入学者にとって魅力のある学校づくり 等

【中高一貫教育検証・改善部会及びワーキンググループ（中学校・高校）】

参加者 … 併設型中学校 4 校及び併設型高校の副校長と教頭、教職員、教育政策課及び学校教育課の担当者

平成 25 年度のテーマ

- ・ 6 年間を見通した教育の充実による学ぶ意欲の向上
- ・ 市町立中学校などからの入学者にとって魅力ある学校づくり
- ・ 中学校と高校の連携

平成 26 年度のテーマ

- ・ 中学校段階で育てたい力及び高校段階で伸ばしたい力
- ・ 地域の教育力向上への中高一貫教育校の関わり
- ・ 不登校傾向の生徒等への対応

【アンケート調査】

調査日 … 平成 26 年 10 月

対象 … 併設型中高一貫教育校の全生徒

テーマ … 中高一貫教育校に入学しようとした理由及び入学してからの満足度等について

回答数

	致遠館中	唐津東中	香楠中	武雄青陵中	合計
1 年生	119	116	116	116	467
2 年生	114	117	117	107	455
3 年生	153	117	116	153	539
合計	386	350	349	376	1461

	致遠館高	唐津東高	鳥栖高	武雄高	合計
1 年生	232	242	238	271	983
2 年生	221	221	234	272	948
3 年生	229	214	232	266	941
合計	682	677	704	809	2872

【市町教育委員会への聞き取り調査】

訪問期間 … 平成 26 年 10 月～平成 27 年 1 月

訪問先 … 県内 11 市町教育委員会

（平成 19 年度以降で併設型中学校進学者が平均 10 人以上の市町を訪問）

テーマ … 県立中高一貫教育校の市町立中学校への影響等について

4 検証結果

1 中高一貫教育の導入時のねらいに基づく検証

(1) 中高一貫教育導入による一層の教育効果の発現

① 中高6年間を見通した教育が実践されているか

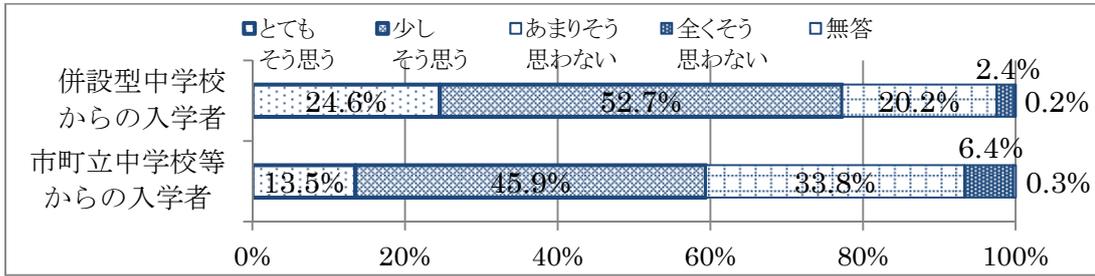
- 各中高一貫教育校では、国際社会、国や地域社会に貢献する人材の育成を教育目標として、6年間を見通した指導を実施しており、併設型中学校から併設型高校へほとんどの生徒が進学している。
- 併設型中学校では学習を深化させ、高校の学習内容への興味・関心を喚起するため、高校の教員が交流授業を行ったり、高校の教育内容の先取りなど特例を活かした教育課程を編成したりしている。このため、併設型中学校からの入学者の多くが高校での授業に戸惑いなくスムーズに入ることができている。
- 教育課程の特例を活用していない学校においても、高校受験のないゆとりを利用して高校の内容の一部を発展学習として取り扱っている。

【6年間の教育計画】

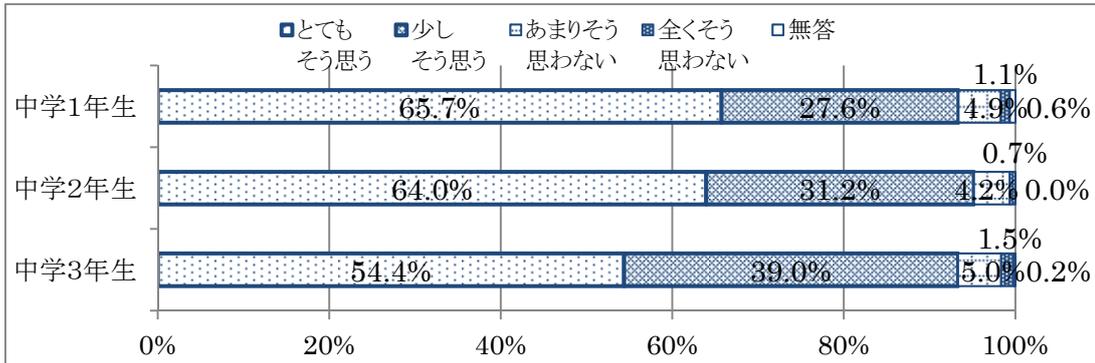
学校名	区 分	概 要
致遠館中 致遠館高	中1－中2：自己理解	様々な体験活動や異年齢集団活動を通して自己理解を図る。
	中3：進路設計	高校の内容の先取りや選択教科を通して、自らの個性や適性の確立を図る。
	高1：進路設計	自らの適性を発見し、理数科、普通科の進路選択によって、進路の明確化を図る。
	高2－高3：専門性の深化・自己実現	将来の進路実現に向けて特色ある教科の学習を通し、個性伸長を図る。
唐津東中 唐津東高	中1－中2：基礎期	素地をつくる。
	中3－高1：深化期	可能性を高める。
	高2－高3：応用期	自己実現を目指す。
香楠中 鳥栖高	中1：基礎期	望ましい生活習慣の確立を目指す。
	中2－中3：前充実期	自己理解と社会性の育成を目指す。
	高1－高2：後充実期	進路学習等を通して生き方・あり方を探究させ、視野の拡大と自己形成を図ることを目指す。
	高3：発展期	社会的使命感の涵養を図ることを目指す。
武雄青陵中 武雄高	中1－中2：基礎定着期	基礎学力の定着を目指す。
	中3：基礎充実期	基礎学力の充実を目指す。
	高1：自己拡充期	学力の伸長・発展を目指す。
	高2－高3：自己確立期	学力の充実・完成を目指す。

【生徒アンケート①】

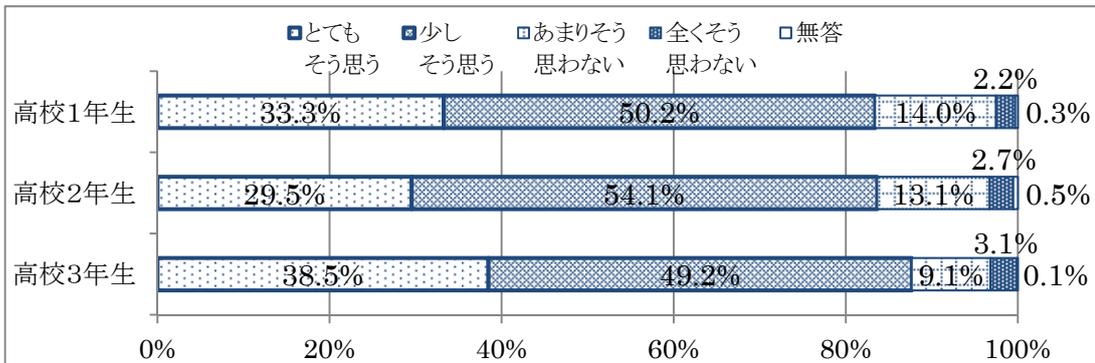
質問 高校での授業に戸惑いなくスムーズに入ることができましたか



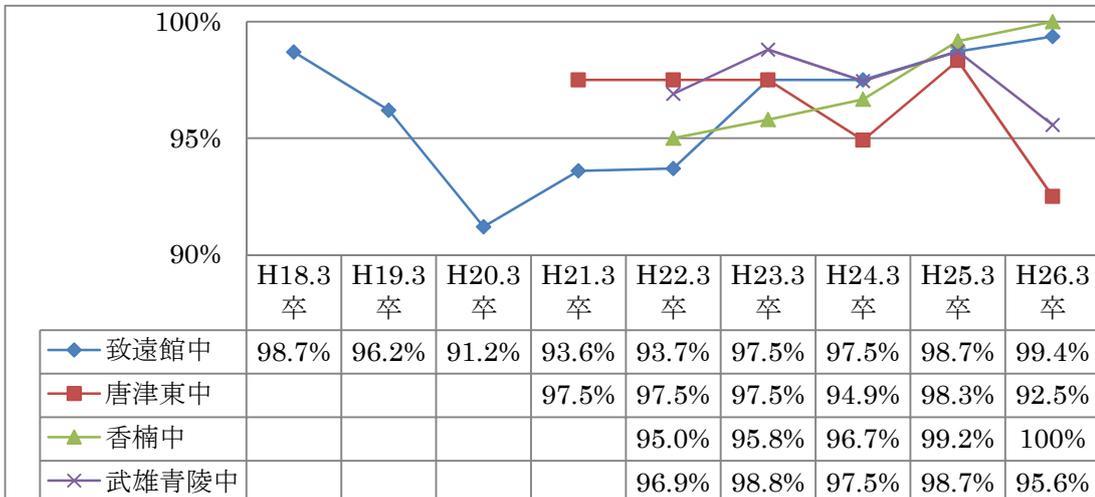
質問 併設型中学校に入学して良かったと思いますか



質問 併設型高校に入学して良かったと思いますか



【併設型中学校から併設型高校への進学率】



【併設型中学校での特徴ある進路指導】

<ul style="list-style-type: none"> ・大学訪問 … 九州大学、立命館アジア太平洋大学、福岡大学など ・高校ガイダンス … 高校生や高校の教員による講話、体験授業など ・進路講演会 … 講師は高校教員や外部講師など ・その他 … 大学生の出前講座、高校生の校外体験発表等への参加など

【教育課程の基準の特例 活用状況（平成26年度）】

学校名	中学校で指導する高校の内容	指導した教科
致遠館中 致遠館高	・数学Ⅰの「数と式、方程式と不等式、2次関数」の一部	数学(中3)
	・現代社会の「環境問題をテーマとした地球環境問題、資源、エネルギー」	選択人文 (中3)
	・化学基礎の「物質の構成と構造」の一部 ・生物基礎の「生態系とその保全、細胞と発生」の一部	選択理数 (中3)
武雄青陵中 武雄高	・国語総合の「古文(品詞分類、活用形・活用の種類、助動詞、文学史)」、「漢文(訓読方法)」	国語(中3)
	・数学Ⅰの「数と式、方程式と不等式」・数学Aの「平面図形」	数学(中3)
	・コミュニケーション英語Ⅰの「SVOCを使った文型、過去完了形、所有格 whose、目的格 whom、英単語」	英語(中3)

【併設型中学校での高校の学習内容の取組状況（平成26年度）】

高校での学習内容を

- ①：特例を活用し先取り学習を行っている。
- ②：発展学習として取り扱っている。
- ③：ほとんど取り扱っていない。

	国語	英語	数学	理科	社会
香楠中	②	②	②	②	②
致遠館中	②	③	①	*1	*2
唐津東中	②	②	②	③	③
武雄青陵中	①	①	①	②	③

*1：理系選択教科選択者は①、それ以外は③

*2：文系選択教科選択者は①、それ以外は③

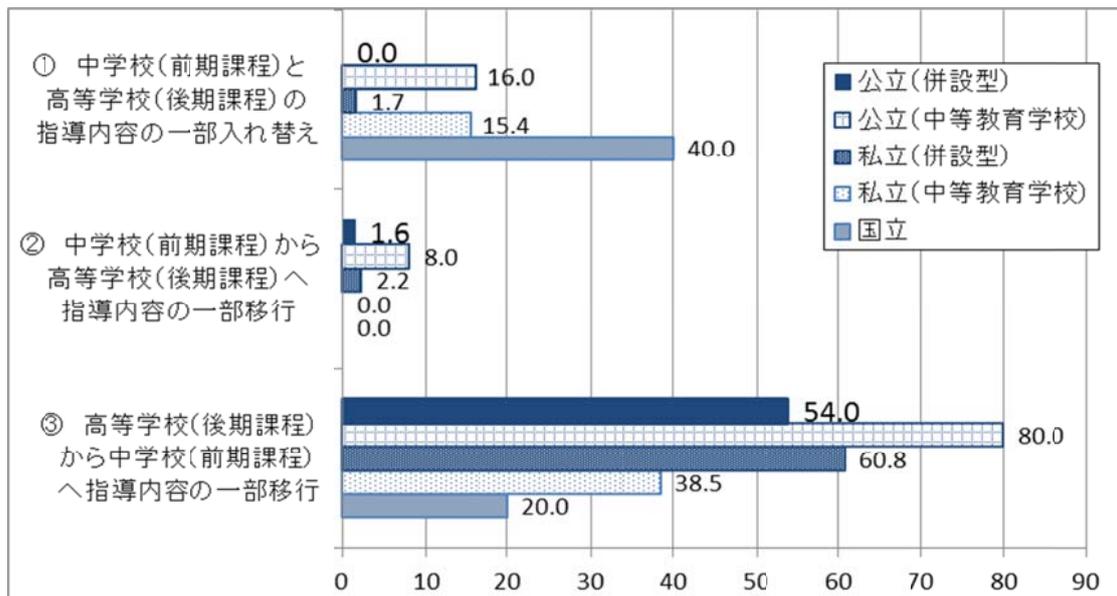
《参考》

中高一貫教育に係る教育課程の基準の特例の拡充

平成 16 年度の学校教育法施行規則の一部改正により、中高一貫教育に係る教育課程の基準の特例が拡充された。このことにより、併設型中高一貫教育校では次の 3 つが可能となった。

- ① 併設型中学校と併設型高等学校における指導の内容については、各教科や各教科に属する科目の内容のうち相互に関連するものの一部を入れ替えて指導することができる。
- ② 併設型中学校における指導の内容の一部については、併設型高等学校における指導の内容に移行して指導することができる。
- ③ 併設型高等学校における指導内容の一部については、併設型中学校における指導の内容に移行して指導することができる。この場合においては、併設型高等学校において当該移行した指導の内容について再度指導しないことができる。

全国の教育課程の基準の特例の活用状況¹



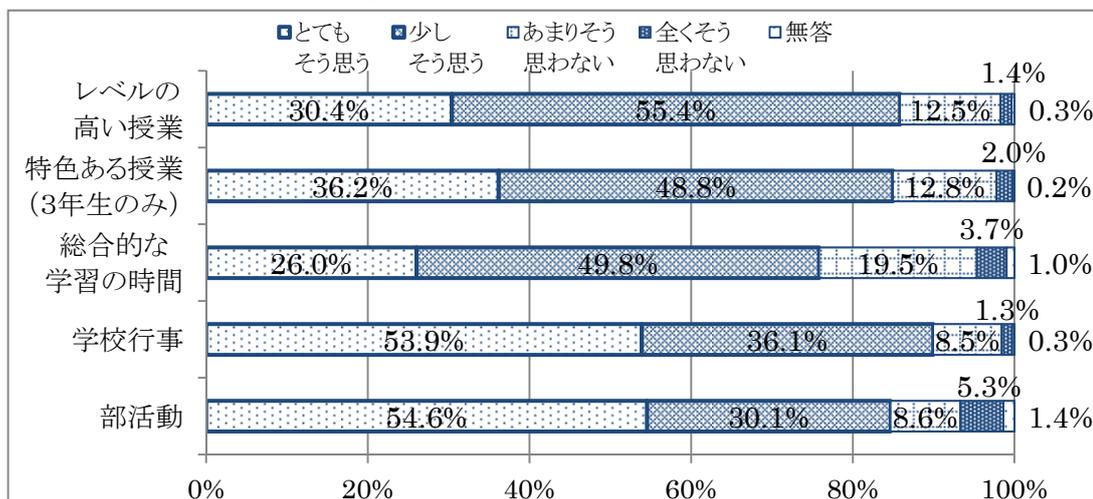
¹ 「中高一貫教育制度に関する主な意見等の整理」中央教育審議会初等中等教育分科会 学校段階間の連携・接続等に関する作業部会（平成 23 年 7 月）

② 生徒一人ひとりの個性や能力の伸長が図られているか

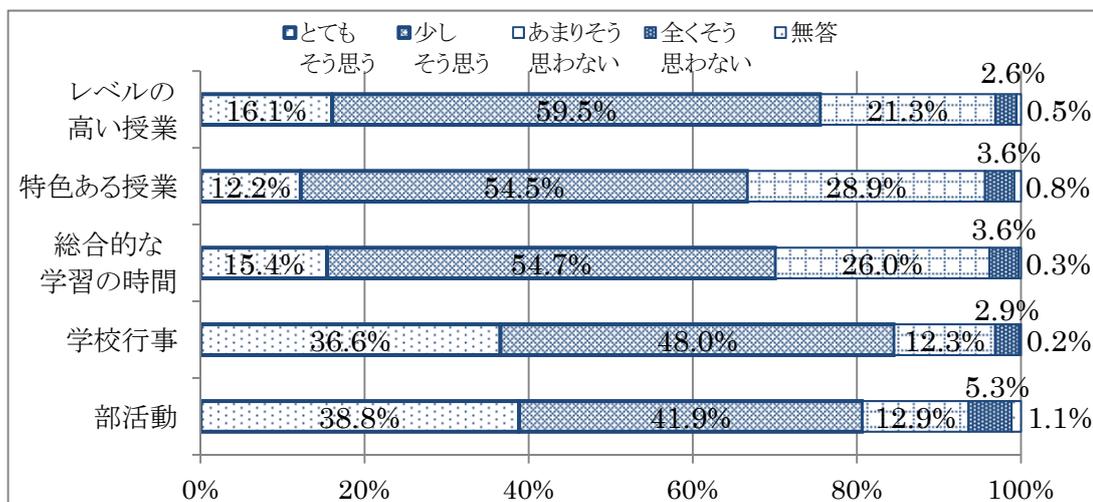
- 中学生、高校生のどちらも授業はもとより学校行事や部活動にも高い満足度を示しており、学校生活の様々な面で充実している様子が窺える。
- 併設型中学校では、高校入試がないゆとりを利用し、多くの生徒が自分の好きなことや興味があることを考えたり、挑戦したりすることができており、生徒が理科作品展や読書感想文など各種コンクール等多方面で優秀な成績を収めるなど、生徒の個性や能力の伸長につながっている。
- 「人文」、「理数」(致遠館中学校)などの学校独自の教科や「レインボープラン」(唐津東中学校)などの総合的な学習の時間の取組に見られるように、体験学習や問題解決学習を充実させており、試行錯誤や体験を積み重ねるなかで生徒の論理的思考力や表現力を高めるための取組を行っている。

【生徒アンケート②】

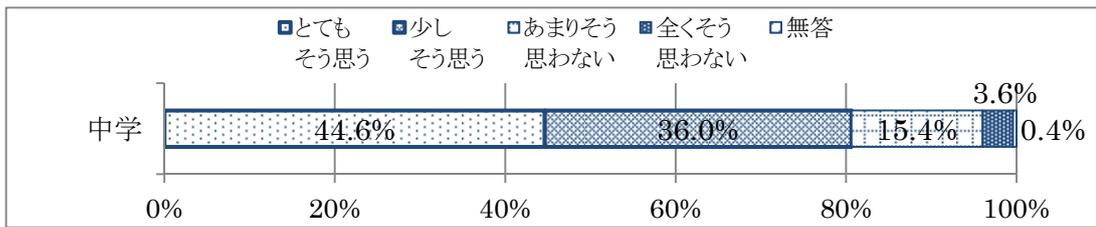
質問 併設型中学校に入学してから、次の各項目について満足していますか



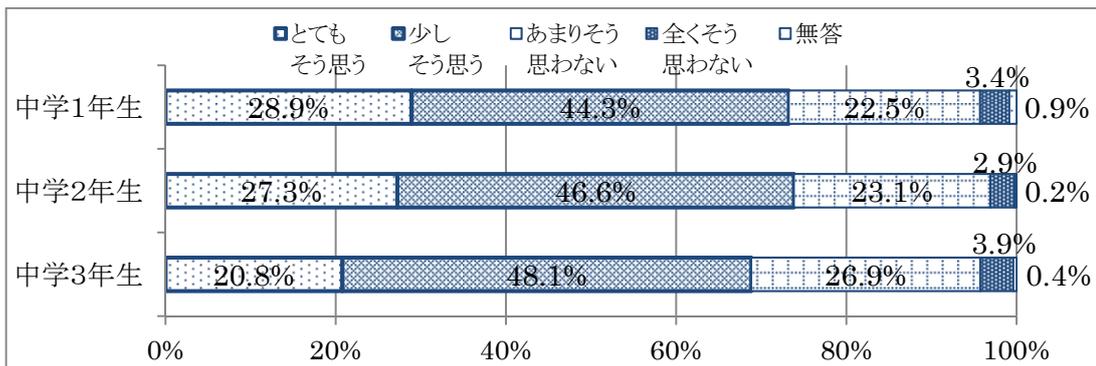
質問 併設型高校に入学してから、次の各項目について満足していますか



質問 高校入試に左右されず、ゆとりある学校生活を送れていますか（中学）



質問 自分の好きなことや興味があることを調べたり考えたりすることができると思いますか



【総合的な学習の時間等での体験学習や課題解決学習（H26年度実施）】

学校名（名称）	具体的体験活動・課題解決学習
致遠館中 〔エリア スタディー〕	<ul style="list-style-type: none"> 福祉体験活動（中1） ・ 職場体験活動（中2） 沖縄プロジェクト（中3）：外国人宅へのホームビジット 「佐賀学」講座（中1） ・ 「日本学」講座（中2） 卒業研究（中3） 人文系：「世界学」講座、理数系：Jr.課題研究
唐津東中 〔レインボー プラン〕	<ul style="list-style-type: none"> 職場見学（中1） ・ 職場体験（中2） ・ APU訪問（中2） 九大研究室訪問（中2, 3） ・ 京大訪問（中3） 高校進学後を意識した進路意識向上のための研究（中3）
香楠中 〔キャリア プランニング〕	<ul style="list-style-type: none"> 博物館、美術館等訪問（中1） ・ 職場体験学習（中2） 職業インタビュー（中2） ・ 卒業レポート（中3） 高校進学後の進路意識向上のための大学研究 ・ 大学訪問
武雄青陵中 〔探究〕	<ul style="list-style-type: none"> 「地域を知る」地域調査（中1） ・ 「社会を知る」職場体験（中2） 「国際探究」「自然探究」「未来探究」（中3）

【各校の学校設定教科（平成 26 年度実施）】

学校名	教科名	年間実施時間	備 考
致遠館中	人文	何れか選択 ・ 70 時間 (中 3)	併設型高校への進学をする際の学科選択に備え、学習を深めていくための基礎作りを行う。国語、英語について中学校での学習を基礎とし、より発展的な内容を取り扱うとともに、高校の「現代社会」の内容の一部を取り扱う。
	理数		中学理科との関連を重視しながら生物や生物現象についての観察、実験等を行い、自然に対する関心や探究心を高め、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。高校の「化学基礎」及び「生物基礎」の内容の一部を取り扱う。
	探究	・ 10 時間 (中 2)	数列やゲームの必勝法など思考力の必要となる教材を用いながら、「試行錯誤」「議論」「証明」に意識して取り組み、柔軟な思考力を養う。
唐津東中	設定なし	平成 22 年度入学生より学校設定教科を廃止し、総合的な学習の時間に組み込んでコミュニケーション活動を入れている。	
香楠中	コミュニケーション	・ 35 時間 (中 2)	日本語と英語による自己表現と相互理解活動
	サイエンス	・ 35 時間 (中 3)	自然や数理的な事象に関する発見的学習
武雄青陵中	設定なし	学校設定教科を設定せず、総合的な学習の時間で「国際探究」「自然探究」「未来探究」（ともに中 3）を設定している。	

【部活動及び文化・芸術活動での入賞状況（平成 25 年度の実績）】

致遠館中・致遠館高	
部活動	<p>【中学】</p> <p>第 30 回 NHK 杯全国中学校放送コンテスト 朗読部門優良賞</p> <p>第 66 回全日本合唱コンクール全国大会銅賞 第 5 回全日本少年春季軟式野球大会優勝</p> <p>【高校】</p> <p>テニス（男子：県高校テニス新人大会団体準優勝、県高校テニス 1 年生大会優勝） （女子：県高校総体団体準優勝、県高校テニス新人大会優勝）</p> <p>弓道（女子：県春季大会団体準優勝）</p> <p>第 25 回佐賀県高等学校総合文化祭 （書道部門個人特選、写真展個人準特選、新聞コンクール団体 最優秀賞）</p>

文化・芸術	<p>【中学】 平成 25 年度佐賀県教育長表彰教育長賞 第 75 回佐賀県珠算競技大会中学校の部 2 位 第 35 回少年の主張佐賀県大会優良賞</p> <p>【高校】 平成 25 年度九州高等学校生徒理科研究発表大会団体優良賞 第 14 回佐賀県高等学校英語スピーチコンテスト (オリジナルスピーチ部門 個人 1 位)</p>
唐津東中・唐津東高	
部活動	<p>【中学】 水泳 〔 ・ 県中体連男子総合優勝 ・ 九州中体連男子総合優勝 ・ 全国中学校水泳競技大会 ・ 男子 1500m 自由形優勝(日本新) ・ 男子 400m 自由形 2 位 ・ 男子 400m フォーレレー 8 位 〕 陸上 (・ 九州中体連共通女子 4×100m リレー 4 位)</p> <p>【高校】 県高校総体 〔 ・ 弓道女子団体優勝 ・ ポート男子団体優勝 ・ バドミントン男子ダブルス 2 位 ・ 卓球男子シングルス 2 位 ・ ソフトテニス男子個人 3 位 以上、全国・九州大会出場 〕</p> <p>新人大会 〔 ・ 弓道男子団体優勝、個人 2 位 ・ 弓道女子全国選抜大会個人 2 位 ・ ソフトテニス男子団体優勝 ・ テニス団体 2 位、シングルス・ダブルス 3 位 ・ バドミントン女子団体 3 位 ・ 登山女子優勝 〕</p> <p>科学 〔 ・ 缶サット甲子園 2013 九州大会優勝、全国大会優勝・技術賞 ・ アジア太平洋地域国際大会準優勝 ・ 県児童生徒理科作品展覧会県知事賞 ・ 日本学生科学賞佐賀県審査最優秀賞 ・ 県児童生徒理科研究発表会県知事賞 ・ 県理科・科学教育研究会会長賞 〕</p> <p>書道 〔 ・ 第 29 回高円宮杯日本武道館書写書道第展覧会毛筆の部 日本武道館賞 ・ 岐阜女子大学全国書道展準大賞 ・ 第 19 回全日本高等学校書道コンクール部門賞(最高書) 〕</p> <p>美術 〔 ・ 県高等学校スケッチ大会佐賀県造形教育研究会賞 ・ 九州高文連美術・工芸・書道・写真展美術工芸部門優秀賞 ・ 県総合文化祭美術工芸展絵画の部特選、立体・工芸の部特選、デザインの部特選 ・ 第 57 回西日本読書感想画コンクール自由図書の部最優秀・優秀・優良 ・ 県デザインコンクール静物の部 佐賀県高等学校文化連盟賞、佐賀県造形教育研究会賞 〕</p>
文化・芸術	<p>【中学】 平成 25 年版科学技術白書表紙絵・デザインコンクール最優秀賞 佐賀県中学校英語暗唱大会優勝 佐賀県中学校人権作文コンテスト佐賀県大会最優秀賞</p> <p>【高校】 全国高等学校総文祭弁論部門文化連盟賞 県高等学校スピーチコンテスト優勝 内閣府主催「家族や地域の大切さに関する作品コンクール」手紙・メール部門最優秀賞 県高等学校英語ディベート大会優勝 (全国大会出場) 明るい選挙啓発ポスターコンクール県審査特選 小倉百人一首カルタ大会全国総文祭県予選 2 位</p>

	香楠中・鳥栖高
部活動	美術（佐賀県中学校スケッチ大会特選1席） 音楽（第68回九州合唱コンクール金賞） 科学（第1回科学の甲子園ジュニア全国大会出場） 陸上（ジュニアオリンピック陸上競技佐賀県予選会女子2年1500m第1位）
文化・芸術	【高校】 第14回佐賀県百人一首大会（・団体第1位　・個人第1位） 英語検定成績優秀者2名
	武雄青陵中・武雄高
部活動	【高校】 テニス （・県高校総体女子シングルス準優勝） 少林寺 〔・平成25年度全九州高等学校総合体育大会少林寺拳法競技 男子団体演武第2位、男子単独演武第1位、男子組演武（自由）第1位、 男子組演武（規定）第1位、女子組演武（規定）第1位 ・平成25年度佐賀県高等学校新人体育大会少林寺拳法競技大会 男子単独演武第1位、男子組演武第1位、男子団体演武第1位〕 美術 〔・第66回佐賀県高等学校スケッチ大会特選 ・第25回佐賀県高等学校総合文化祭絵画の部特選一席 ・第57回西日本読書感想画コンクール特選2名　・第42回全国高校書道展特選〕
文化・芸術	【中学】 弓道（県中学校弓道大会　団体女子優勝、個人女子優勝、全国大会へ） バドミントン （県中学校バドミントン大会　男子ダブルス優勝、九州大会へ、別の大会では全国大会へ） 水泳（県中学校水泳大会1名九州大会へ） 剣道（県中体連剣道　女子個人2位、全国大会へ） 陸上（県中体連陸上大会　個人3名優勝　400mリレー優勝　男子総合優勝　九州大会へ）
文化・芸術	【高校】 第14回佐賀県百人一首大会（・団体第1位　・個人第1位） 英語検定成績優秀者2名

③ 中高の生徒間の交流は適切に行われているか

- 部活動では、体力やルールの違いや中学生と高校生と一緒に活動することの影響などを配慮しながら、実施可能な範囲での活動や交流が行われている。
- 中学3年生は中体連以降も継続して活動が可能なおことから、併設型中学校からの入学者が併設型高校入学後すぐに活躍している事例もある。
- 武雄青陵中学校と武雄高等学校は校地が離れているが、総合的な学習の時間の中高合同発表会などの特色ある学校行事や部活動をとおしての交流を行っており、中学生に良い刺激となっている。また、ICTの利活用により生徒会の交流や生徒発表会への参加など先進的な取組も行われている。

【主要行事の中高合同開催状況】

	入学式	卒業式	文化祭	体育祭	開校行事	遠足
致遠館中・致遠館高	合同	別	※1	合同	合同	合同
唐津東中・唐津東高	合同	別	合同	合同	合同	合同
香楠中・鳥栖高	合同	別	※2	※2	※1	※1
武雄青陵中・武雄高	別	別	※3	※3	合同	合同

※1 実施日は同じであるが、発表内容や場所が異なる

※2 文化祭は別開催であるが、1日は日程をあわせて中高が交流
体育祭当日は別開催だが、企画や練習では交流を実施

※3 校地は離れているが、一部交流を実施

【部活動における併設型中学校と併設型高校の交流】

※ 平成25年度の状況

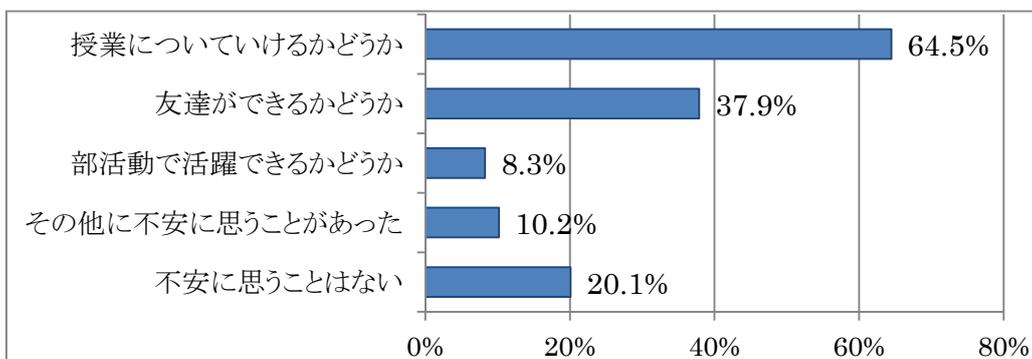
	致遠館中・致遠館高	唐津東中・唐津東高	香楠中・鳥栖高	武雄青陵中・武雄高
通年で交流	・剣道部 ・水泳部 ・書道部	・美術部 ・書道部	・体操部 ・サッカー部	・弓道部
合同練習	・サッカー部 ・テニス部 ・女子バスケットボール部 ・写真部 ・新聞部	・陸上部 ・バスケットボール部 ・バレーボール部 ・卓球部	・吹奏楽部 ・陸上部	・剣道部 ・バレーボール部 ・書道部
中体連後の参加※	希望者(80人程度)	希望者(40人程度)	希望者(70人程度)	希望者(80人程度)
他	・音楽部は定期演奏会を合同開催	・音楽部は定期演奏会を合同開催 ・美術部、書道部の合同展覧会	・音楽部、吹奏楽部は定期演奏会を合同開催	・吹奏楽部は定期演奏会を合同開催

④ 市町立中学校などからの入学者にとって併設型高校は魅力ある学校づくりが行われているか

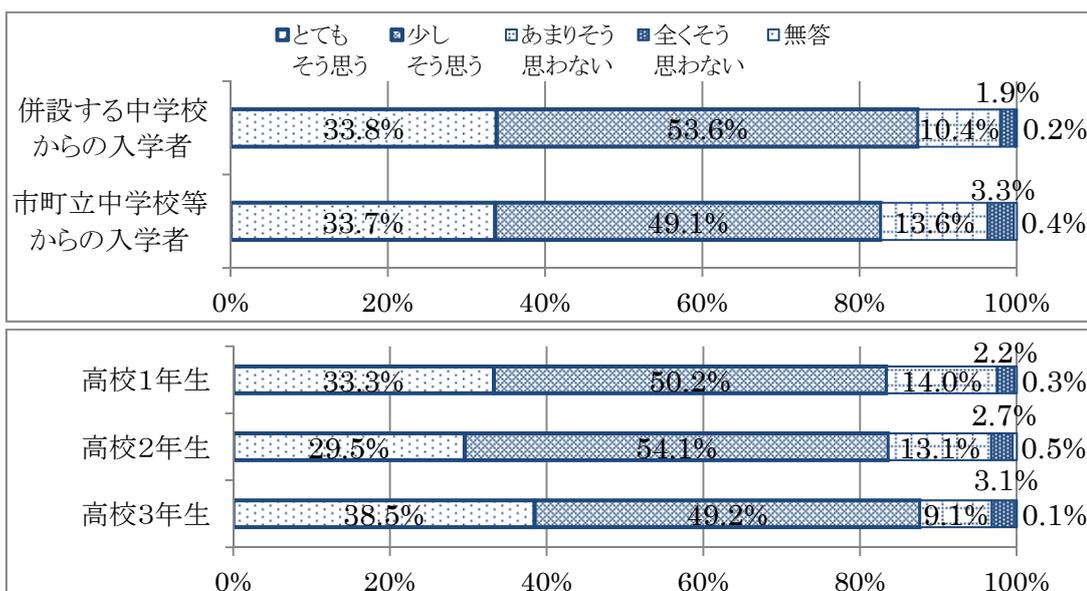
- 併設型高校の受検に際して、市町立中学校などからの入学者の中には、授業についていけるかどうかなどについて、不安を感じている生徒がいる。
- 市町立中学校などからの入学者が感じる不安の払拭のため、併設型高校においては、学校説明会や学校便りで中学生や保護者への情報発信を行うとともに、習熟度別授業や補習などを行っている。
- 併設型高校の生徒の多くが「入学して良かった」と思っており、この割合は併設型中学校からの入学者と市町立中学校などからの入学者と間で大きな違いは見られない。また、学年が進むごとに「入学して良かった」と思う生徒の割合が増加している。

【生徒アンケート③】

質問 併設型高校を受検する際、不安に思うことはありましたか（複数回答可）



質問 併設型高校に入学して良かったと思いますか（p. 6再掲）



(2) 中等教育における進路選択幅の拡大

① 中学校進学時の進路選択幅は拡大したか

- 香楠中学校及び武雄青陵中学校が開校した平成 19 年度以降では、ほとんどの市町で併設型中学校への進学者を出している。
- 4校が開校した平成 19 年度の各市町の生徒数に占める併設型中学校入学者の割合は全体で 6.0%であり、その後、年々上昇していたが、致遠館中学校と武雄青陵中学校の入学者定員について学級減を行った平成 25 年度には 5.5%となった。
- 平成 19～24 年度では、武雄市の割合が 15%程度と他地区に比べ特に高かったが、学級減を行った平成 25 年度以降は他地区と同程度の 10%程度となり偏りが是正された。
- 併設型中学校への進学者を出した小学校の割合は、致遠館中学校のみが開校していた平成 15～17 年度は東部学区及び中部学区が高く、北部学区及び西部学区は低かった。4校が設置された平成 19 年度以降では、どの地区でも多くの小学校から併設型中学校へ進学しており、佐賀県内のいずれの地域においても併設型中学校進学が新たな選択肢として定着したものとする。
- 平成 28 年度から併設型高校を含む県立高校全日制普通科の通学区域を 4 学区から 2 学区に拡大することが予定されており、これに伴い児童や保護者の選択の幅をさらに広げるためにも、併設型中学校の通学区域の拡大について検討する必要がある。

【学区別併設型中学校入学者の出身小学校数の推移】

	平成 15～17 年度			平成 18 年度			平成 19～24 年度			平成 25～26 年度		
	の県 出立 身中 小入 の学 数者	全 小 学 校 の 数	割 合									
東部学区	17	23	73.9%	17	23	73.9%	24	24	100%	24	24	100%
中部学区	33	51	64.7%	36	51	70.6%	42	51	82.4%	39	46	84.8%
北部学区	4	42	9.5%	25	41	61.0%	32	35	91.4%	29	35	82.9%
西部学区	11	58	19.0%	19	58	32.8%	52	58	89.7%	44	58	75.9%
合計	65	174	37.4%	97	173	56.1%	150	168	89.3%	136	163	83.4%

※ 対象期間中に統廃合のあった小学校は1つの学校として計算

〔例えば、平成 22 年に統合された有浦小、牟形小、仮屋小は平成 19～24 年度の各年度に全ての年度において1校として計算した。〕

【他学区からの流入・流出の状況（人数）】

※ 学区の設定は平成19年度入学生から。そのため、それ以前の数値は学区が設定されていた場合の仮の数である。

	平成15～17年度 入学生の平均		平成18年度 入学生		平成19～21年度 入学生の平均		平成22～24年度 入学生の平均		平成25～26年度 入学生の平均	
	流入	流出	流入	流出	流入	流出	流入	流出	流入	流出
東部学区		33.0		34.0	0.7	18.0	0.0	21.7	1.0	13.5
中部学区	51.0		51.0	0.0	25.3	4.7	26.3	4.0	16.5	5.5
北部学区		4.0	7.0	0.0	7.0	1.0	5.3	0.3	5.5	1.0
西部学区		14.0		24.0	3.0	12.3	3.3	9.0	5.5	8.5
合計	51.0	51.0	58.0	58.0	36.0	36.0	35.0	35.0	28.5	28.5

H15：致遠館中開校

H19：香楠中・武雄青陵中開校

H18：唐津東中開校

H25：学級減

【各市町の生徒数に占める併設型中学校入学者の割合】

※ 平成15年度に致遠館中学校、平成18年度に唐津東中学校、平成19年度に香楠中学校及び武雄青陵中学校がそれぞれ開校

市町村名	平成15年度			平成18年度			平成19年度		
	㉞県立中 入学者数	㉟全生徒 数	割合 (㉞÷㉟)	㉞県立中 入学者数	㉟全生徒 数	割合 (㉞÷㉟)	㉞県立中 入学者数	㉟全生徒 数	割合 (㉞÷㉟)
鳥栖市	10	652	1.5%	6	616	1.0%	78	706	11.0%
神埼市	6	372	1.6%	10	362	2.8%	21	326	6.4%
吉野ヶ里町	4	177	2.3%	8	184	4.3%	10	171	5.8%
基山町	-	242	0.0%	5	198	2.5%	15	215	7.0%
上峰町	7	107	6.5%	2	94	2.1%	2	103	1.9%
みやき町	9	256	3.5%	3	235	1.3%	13	241	5.4%
佐賀市	77	2,508	3.1%	92	2,398	3.8%	115	2,431	4.7%
多久市	3	257	1.2%	4	231	1.7%	9	232	3.9%
小城市	19	585	3.2%	11	530	2.1%	14	543	2.6%
唐津市	6	1,495	0.4%	110	1,376	8.0%	114	1,380	8.3%
玄海町	-	96	0.0%	2	79	2.5%	3	67	4.5%
伊万里市	1	640	0.2%	9	637	1.4%	17	605	2.8%
武雄市	10	623	1.6%	6	599	1.0%	95	623	15.2%
鹿島市	-	381	0.0%	-	368	0.0%	6	373	1.6%
嬉野市	-	377	0.0%	1	345	0.3%	14	349	4.0%
有田町	-	245	0.0%	-	223	0.0%	8	241	3.3%
大町町	1	91	1.1%	1	72	1.4%	2	76	2.6%
江北町	-	93	0.0%	1	104	1.0%	11	104	10.6%
白石町	4	354	1.1%	6	306	2.0%	10	328	3.0%
太良町	-	156	0.0%	-	130	0.0%	-	122	0.0%
総合計	157	9,707	1.6%	277	9,087	3.0%	557	9,236	6.0%

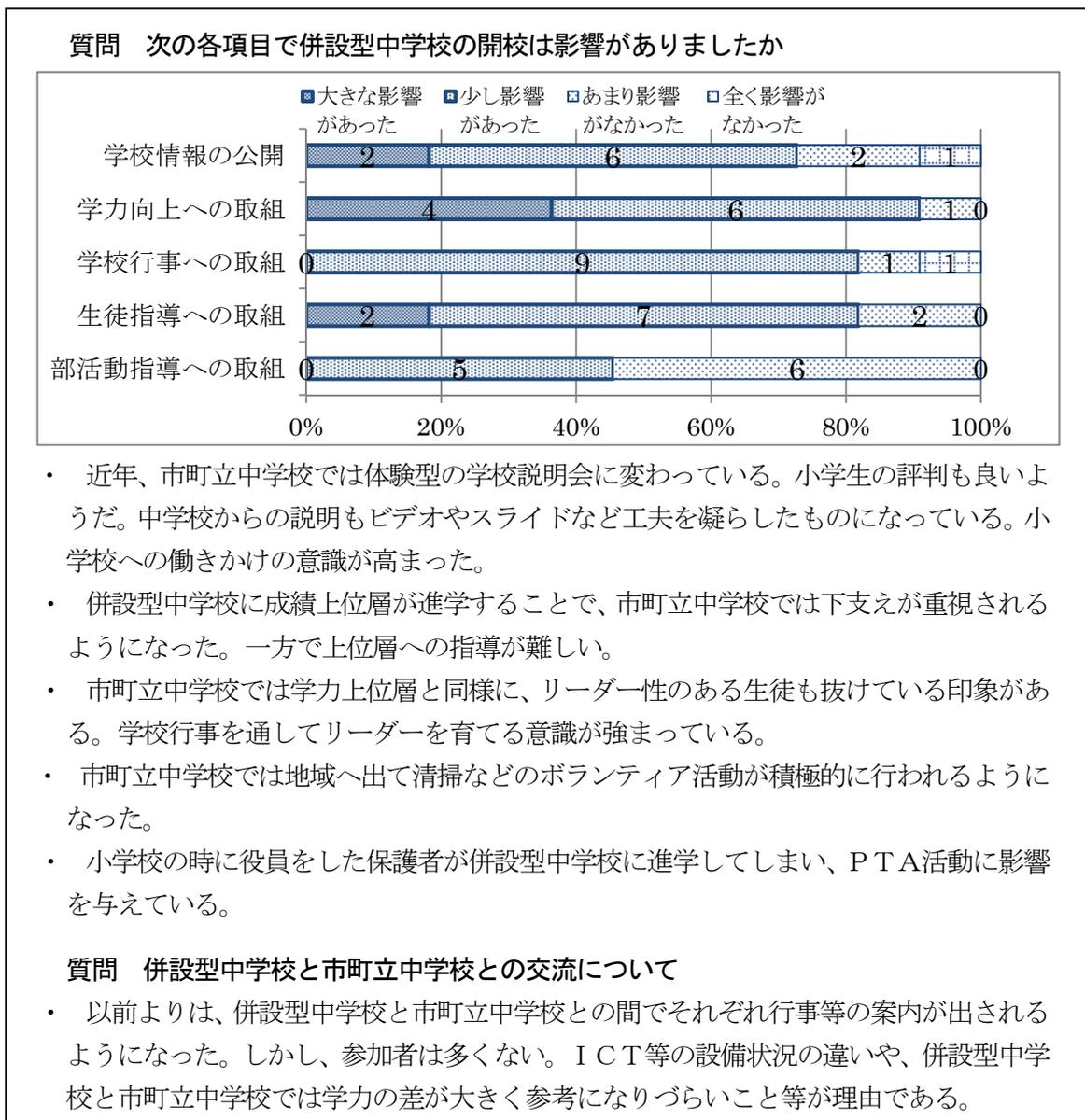
市町村名	平成 24 年度			平成 25 年度			平成 26 年度		
	㊦県立中 入学者数	㊧全生徒 数	割合 (㊦÷㊧)	㊦県立中 入学者数	㊧全生徒 数	割合 (㊦÷㊧)	㊦県立中 入学者数	㊧全生徒 数	割合 (㊦÷㊧)
鳥栖市	89	830	10.7%	86	739	11.6%	82	841	9.8%
神埼市	11	319	3.4%	7	317	2.2%	10	324	3.1%
吉野ヶ里町	12	164	7.3%	13	204	6.4%	9	158	5.7%
基山町	9	173	5.2%	13	165	7.9%	18	176	10.2%
上峰町	5	129	3.9%	4	118	3.4%	3	104	2.9%
みやき町	12	228	5.3%	8	230	3.5%	7	247	2.8%
佐賀市	118	2,305	5.1%	89	2,336	3.8%	88	2,208	4.0%
多久市	8	233	3.4%	15	217	6.9%	5	187	2.7%
小城市	13	517	2.5%	6	466	1.3%	12	496	2.4%
唐津市	113	1,294	8.7%	111	1,390	8.0%	110	1,321	8.3%
玄海町	1	63	1.6%	4	65	6.2%	4	68	5.9%
伊万里市	18	588	3.1%	19	575	3.3%	18	602	3.0%
武雄市	78	524	14.9%	54	510	10.6%	53	518	10.2%
鹿島市	9	324	2.8%	1	348	0.3%	5	331	1.5%
嬉野市	21	299	7.0%	13	291	4.5%	16	266	6.0%
有田町	21	213	9.9%	24	202	11.9%	20	229	8.7%
大町町	3	63	4.8%	1	70	1.4%	2	58	3.4%
江北町	6	91	6.6%	1	78	1.3%	2	95	2.1%
白石町	5	246	2.0%	7	242	2.9%	8	231	3.5%
太良町	-	105	0.0%	-	90	0.0%	-	108	0.0%
総合計	552	8,708	6.3%	476	8,653	5.5%	472	8,568	5.5%

(3) 中等教育全体の活性化

① 市町立中学校にどのような影響を与えたのか

- 市町教育委員会への聞き取り調査では、学力の高い生徒やリーダー性のある生徒が併設型中学校に進学することで、市町立中学校に、学力向上や学校行事、生徒指導など様々な面で影響があるとの声が聞かれた。
- このため、市町立中学校では小学生向けの体験型学校説明会の実施など小学校への働きかけや、学力向上、学校行事を通してのリーダー育成への意識が強まった。また、小中一貫教育や地域との連携強化など、より一層の魅力ある学校づくりを推進する動きが拡大している。
- 市町立中学校と併設型中学校の交流については、部活動や大会・コンクール等を通して生徒間の交流はあるが、教職員間の交流機会は総じて少ない。

【市町教育委員会への聞き取り調査】

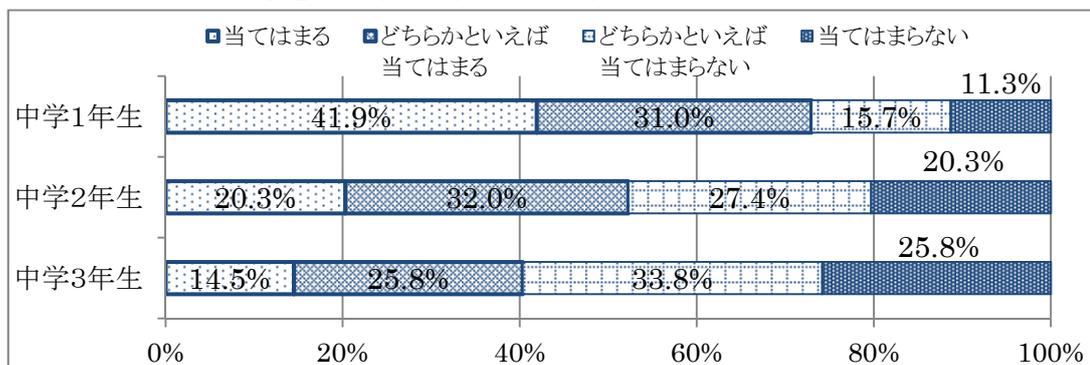


② 地域との連携や協力の状況はどうか

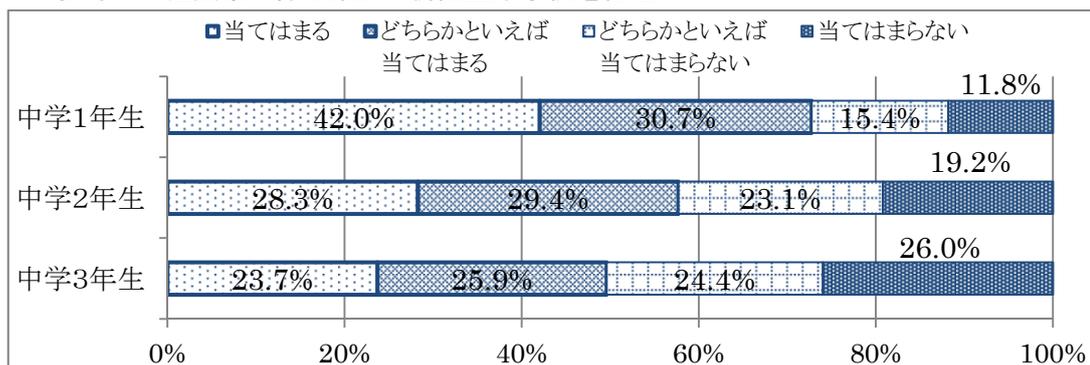
- 各学校では、校外での清掃等のボランティア活動を行っており、地域に貢献する取組を行っている。課業日の地域行事への生徒の参加について、参加しやすいように配慮している学校もある。
- 併設型中学校の生徒の地域への参加は市町立中学校の生徒と同様に中学1年生が最も高く、2年生、3年生と学年が進むごとに低くなっている。その下がり幅は併設型中学校の方が大きい。この要因として生徒同士のつながりが学年の進行に伴い部活動など学校単位になることや併設型中学校の生徒への地域行事の周知不足などが挙げられる。
- 中高一貫教育の活動について地域への周知が不足しているところもあり、学校からの地域へのアピールとともに併設型中学校と市町との連携の強化が望まれる。

【併設型中学校生徒の地域行事への参加状況²⁾】

質問 今住んでいる地域の行事に参加していますか



《参考》 佐賀県全体の集計（併設型中学校を含む）



【市町教育委員会への聞き取り調査】

質問 併設型中学校と地域との交流について

- ・ 市町の行事において、自由参加だと中学生の参加が少ないので市町立中学校に依頼するが、併設型中学校には案内は出していない。このため、市町立中学校に比べ併設型中学校の生徒は参加が難しい面もある。

²⁾ 平成26年度全国学力・学習状況調査及び平成26年度佐賀県小・中学校学習状況調査の結果

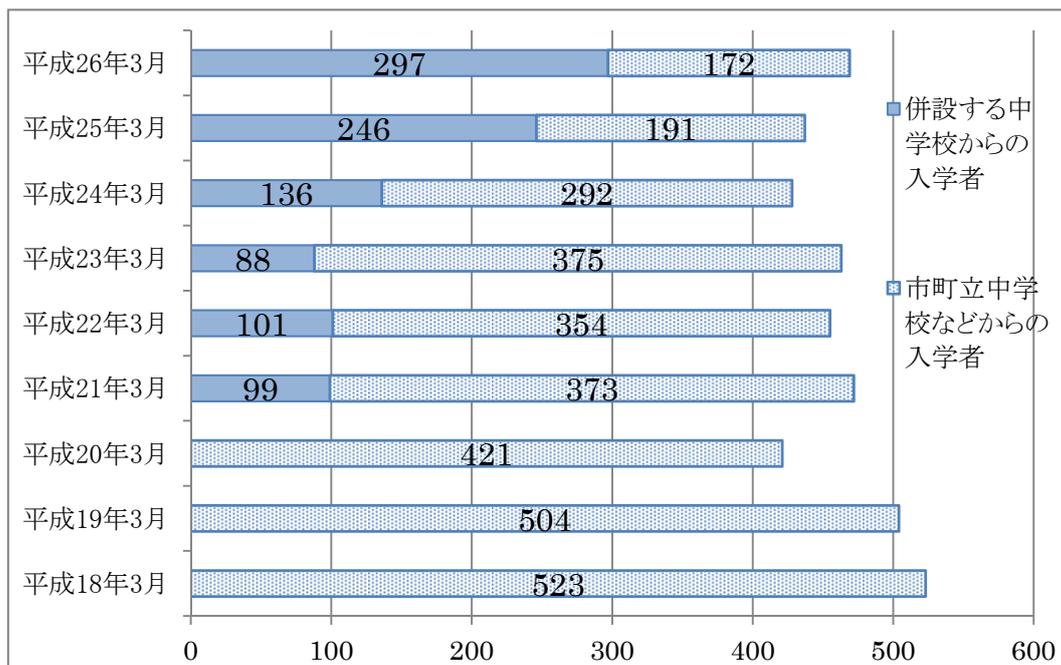
2 中高一貫教育校における卒業生の進路状況の検証

(1) 各中高一貫教育校の進学状況

- 中高一貫教育校では中学生のころから進路意識が高い生徒が多く、難関大学にチャレンジする意欲のある生徒が増加しており、各校とも難関大学の合格者数は併設型中学校からの入学者の割合が大きくなっている。
- 国立大学医学部への推薦入試合格者の増加や難関私立大学のAO入試に複数の合格者を出すなど、中高一貫の特色ある教育活動の成果が表れた。
- 中高一貫の導入による国公立大学や難関大学の合格者数について、大きな変化は見られないが、中高一貫教育校4校が初めて全校揃って卒業生を出した平成25年3月以降、国公立大学、難関大学ともに合格者数に増加傾向が見られる。
- 全体的に国公立大学の合格者数が伸びなかった要因として、併設型中学校からの入学者に高校入試がないことでの緊張感の欠如による学力差の拡大が見られたことや、一部の学校における高校入試の定員割れに伴う成績下位層の増加などが考えられる。
- 高校入試の志願者を増やすために、学校説明会や学校便りなどで中学生や保護者への情報発信を行うとともに、高校1年次での習熟度別授業や市町立中学校などからの入学者を対象とした補習を行い不安解消に努めている。

【中高一貫教育校の国公立大学合格者数推移（現役のみを集計）】

- ※ H21.3に致遠館高校で中高1期生が卒業、H24.3に唐津東高校で中高1期生が卒業、H25.3に鳥栖高校・武雄高校で中高1期生が卒業
- ※ H26.3に併設型中学校入学者選抜において抽選廃止で入学した1回目の学年が卒業

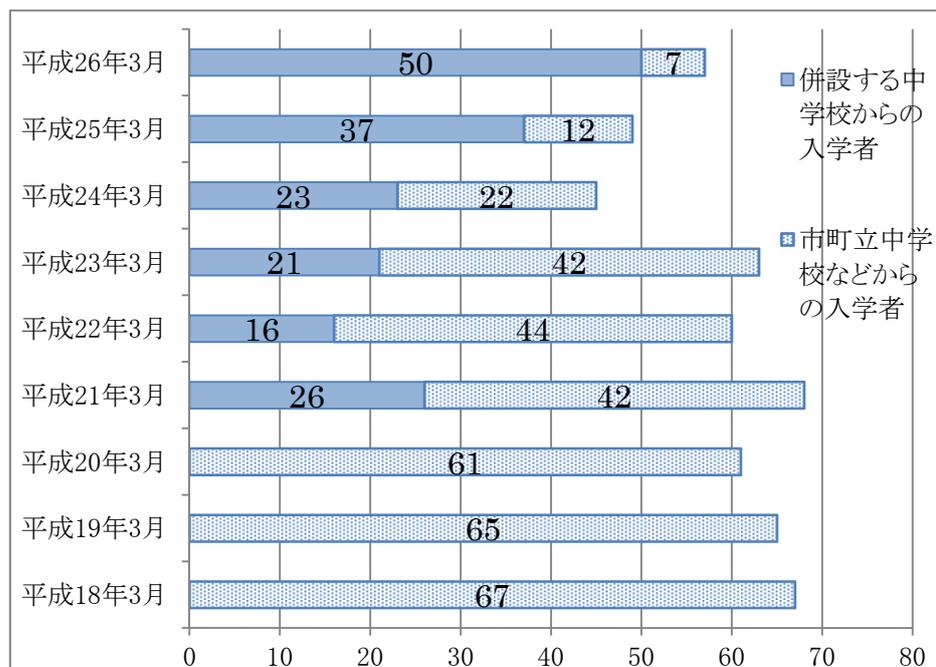


【中高一貫教育校の難関大学合格者数推移（現役のみの集計）】

※ H21.3に致遠館高校で中高1期生が卒業、H24.3に唐津東高校で中高1期生が卒業、
H25.3に鳥栖高校・武雄高校で中高1期生が卒業

※ H26.3に併設型中学校入学者選抜において抽選廃止で入学した1回目の学年が卒業

※ 難関大学とは東京大学、京都大学、九州大学、北海道大学、東北大学、名古屋大学、
大阪大学、神戸大学、一橋大学、東京工業大学、筑波大学の11大学のこと

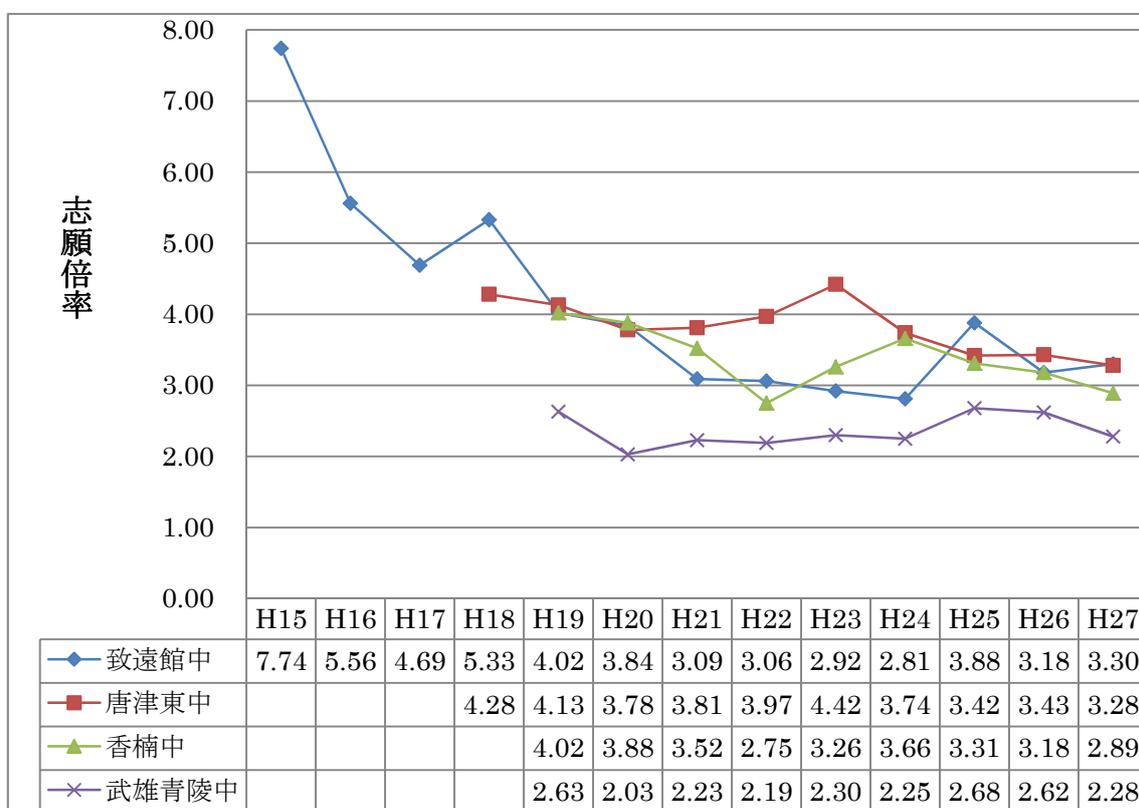


3 中高一貫教育校における入学者募集や受検動向の検証

(1) 併設型中学校の状況

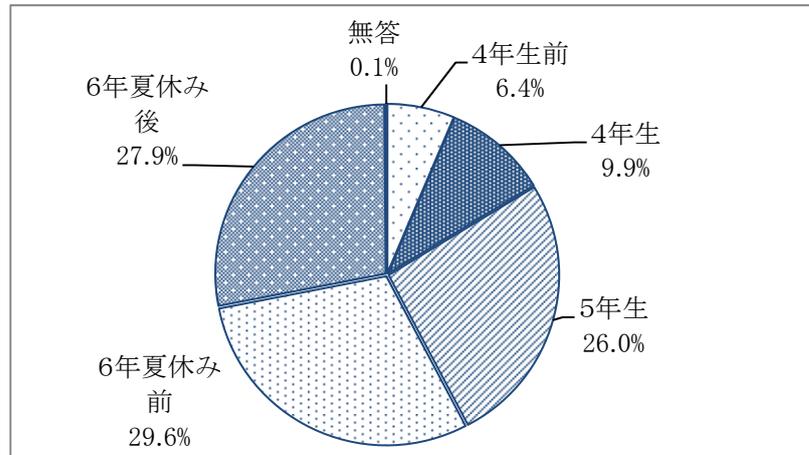
- 併設型中学校の志願倍率は全体で3倍前後と比較的高い値で推移している。
- 平成19年度の4校開校以降の志願倍率は、致遠館中学校と武雄青陵中学校の募集定員を1学級減とした平成25年度以外は大きな変動がなく、併設型中学校が中学校進学時の1つの選択肢として認知されている。
- 併設型中学校の受検を決定した時期については、半数以上が小学6年次となっており、全国と同じような傾向にある。こうしたことから受験競争の過熱化や低年齢化は見られていないと判断される。
- 併設型中学校へ進学の際、重視した項目では「高校入試がない」の他、「レベルの高い授業を受けることができる」や「自分の進路目標が達成できそうである」の割合が高く、学力面や進路面でのニーズが高い。
- 併設型中学校を4校設置した当初は、各学校の特色を踏まえた適性を判断するため学校独自検査を実施していたが、現在では各学校の特色は受検生及び保護者に、十分に周知されており、その意義が薄れている。また、併設型中学校への聞き取り調査においても、学校独自検査に係る課題が出された。こうしたことから、学校独自検査のあり方など、併設型中学校入学者選抜に係る検討が必要である。

【併設型中学校志願倍率】

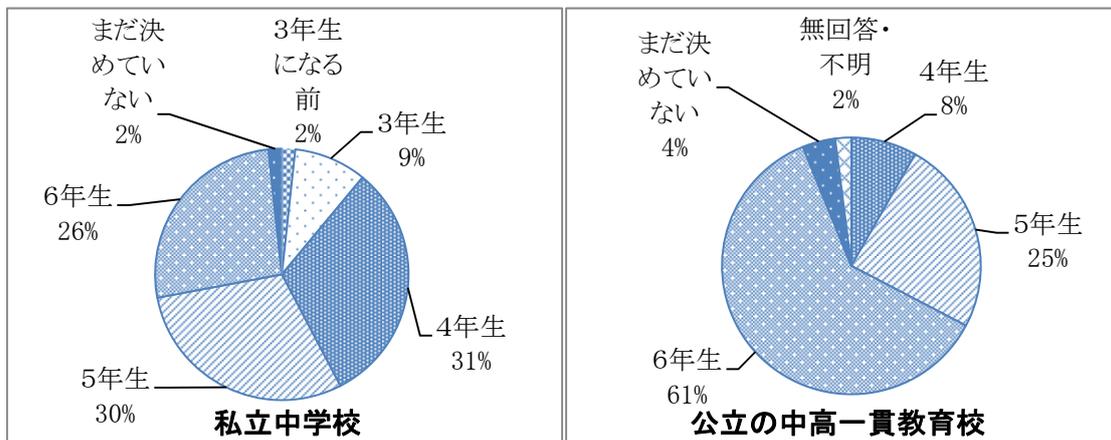


【生徒アンケート④】

質問 あなたはいつごろ、併設型中学校を受検することを決めましたか



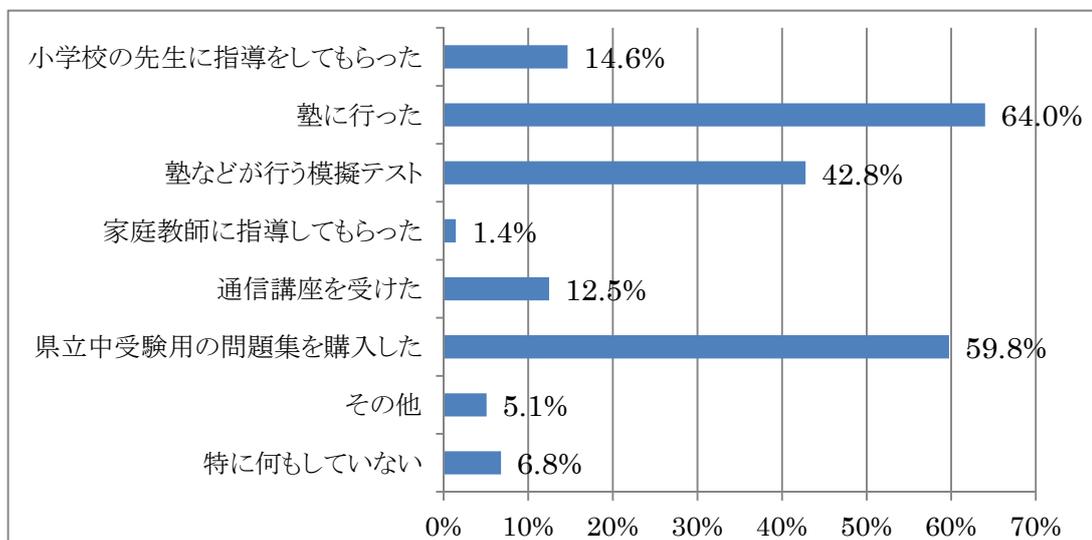
《参考》 全国調査における中学校受験の決定時期 (2007年12月調査)



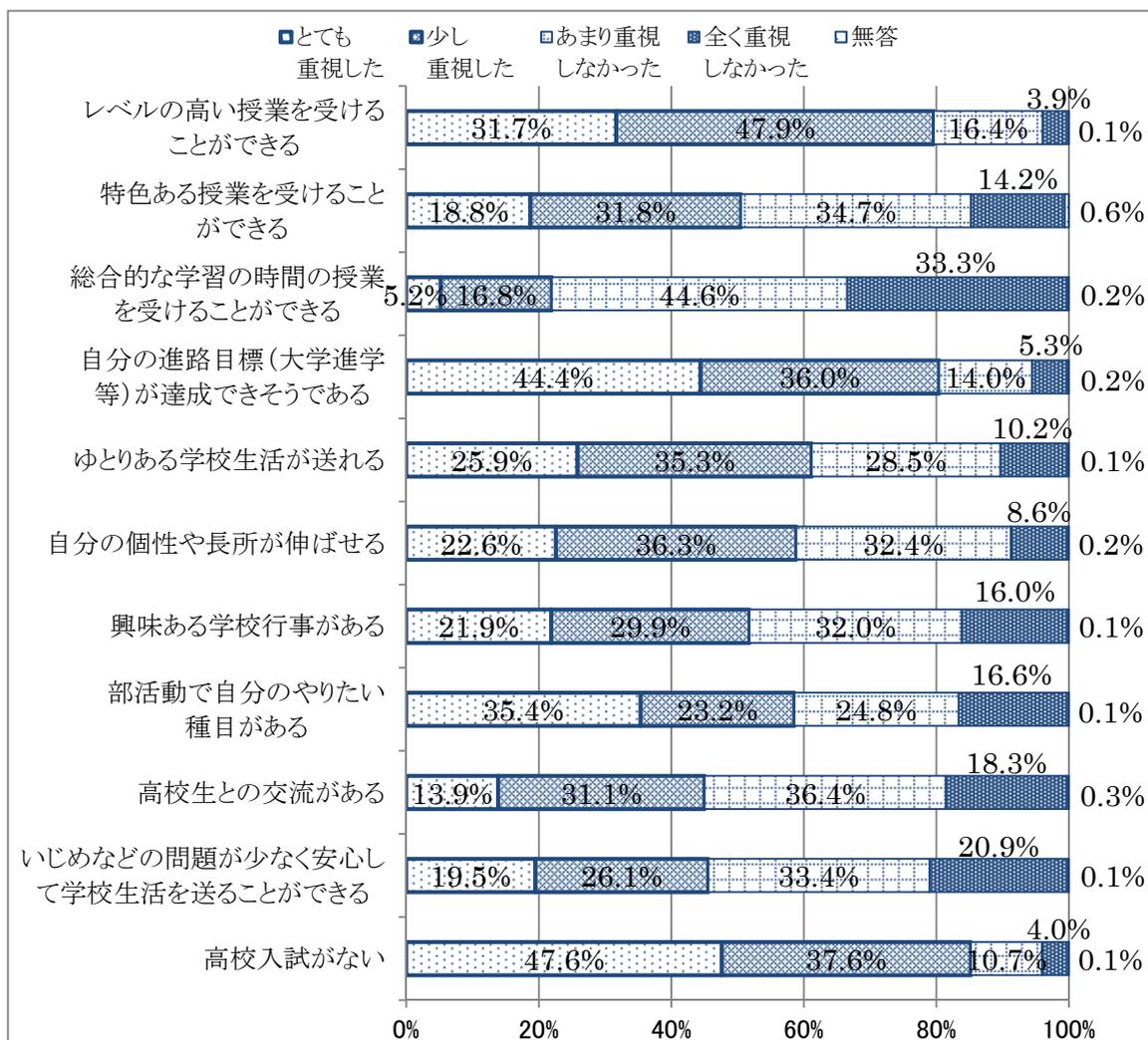
(出典: Benesse 教育研究開発センター「中学校選択に関する調査報告書」)

質問 あなたは併設型中学校を受検するためのどのような準備をしましたか

(複数回答可)



質問 併設型中学校を受検するとき、次の各項目をそれぞれどれくらい重視しましたか



【各併設型中学校への聞き取り調査】

- ・ 他の都道府県における公立の併設型中学校及び中等教育学校等では、ペーパーによる検査は「適性Ⅰ」「適性Ⅱ」のように2種類の適性検査を実施している場合が多いが、本県はそれに加えて学校独自検査を実施している。
- ・ 入試に伴う業務は学校の負担になっており、学校独自検査が現在の形になった平成21年度入学者選抜以降は負担感が増している。
- ・ 入学者選抜当日の日程について、集合時間から検査開始までの時間が40分と短く、大雪などの天候面でのトラブルや嘔吐下痢症、インフルエンザ等の対応が取りにくい状況にある。
- ・ 近年、適性検査と学校独自検査の内容が類似したものになっており、受検生や保護者にとって、その違いが分かりづらい状況にある。
- ・ これまでの入試のノウハウの蓄積により、面接内容の改善や適性検査問題の工夫などで、学校独自検査を実施しなくても受検生の適性が判断できる状況である。

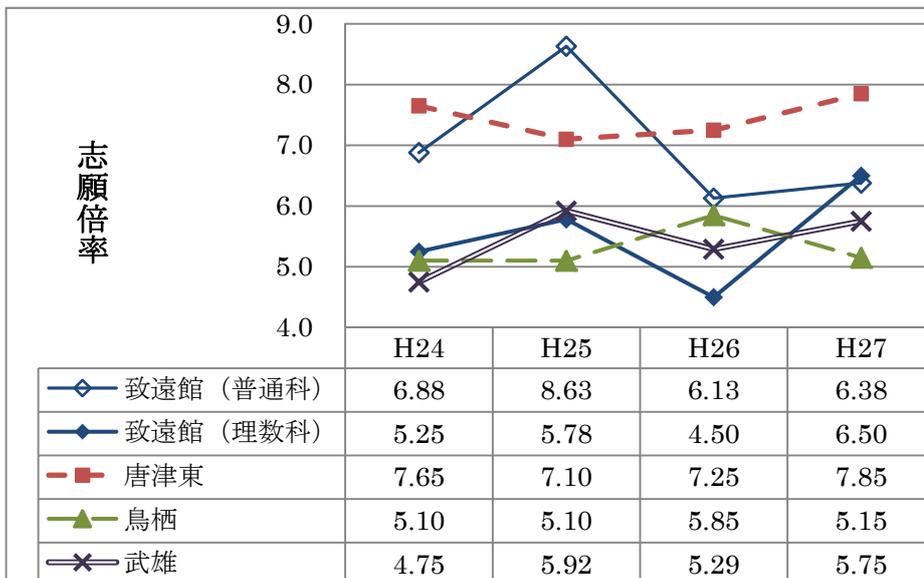
(2) 併設型高校の状況

- 併設型高校への進学の際に、市町立中学校の生徒の中には学習面などで併設型中学校出身の生徒と一緒にすることに不安をもっている者もいる。また、高校での募集定員が少ないことから受検を敬遠することもある。こうしたことから、中高一貫教育の導入後、志願倍率が低下し定員に満たない学校もあった。
- 不安感の解消のため、教育委員会では致遠館高校及び武雄高校の併設型中学校の募集定員を減らすことで、併設型中学校からの入学者数と市町立中学校などからの入学者数を同数にする変更や、致遠館高校理数科での推薦入試の募集枠の変更を行った。
- 各学校では、市町立中学校での高校説明会や出前授業等の取組が積極的に行われるようになった。また、高校説明会において先取り学習による併設型中学校からの入学者との進度の差への対応や、市町立中学校などからの入学者の高校での成績の状況など詳しい説明を行い、不安の払しょくに努めている。
- 高校へ進学の際、重視した項目では併設型中学校と同様に「レベルの高い授業を受けることができる」や「自分の進路目標が達成できそうである」の割合が高く、学力面や進路面でのニーズが高い。

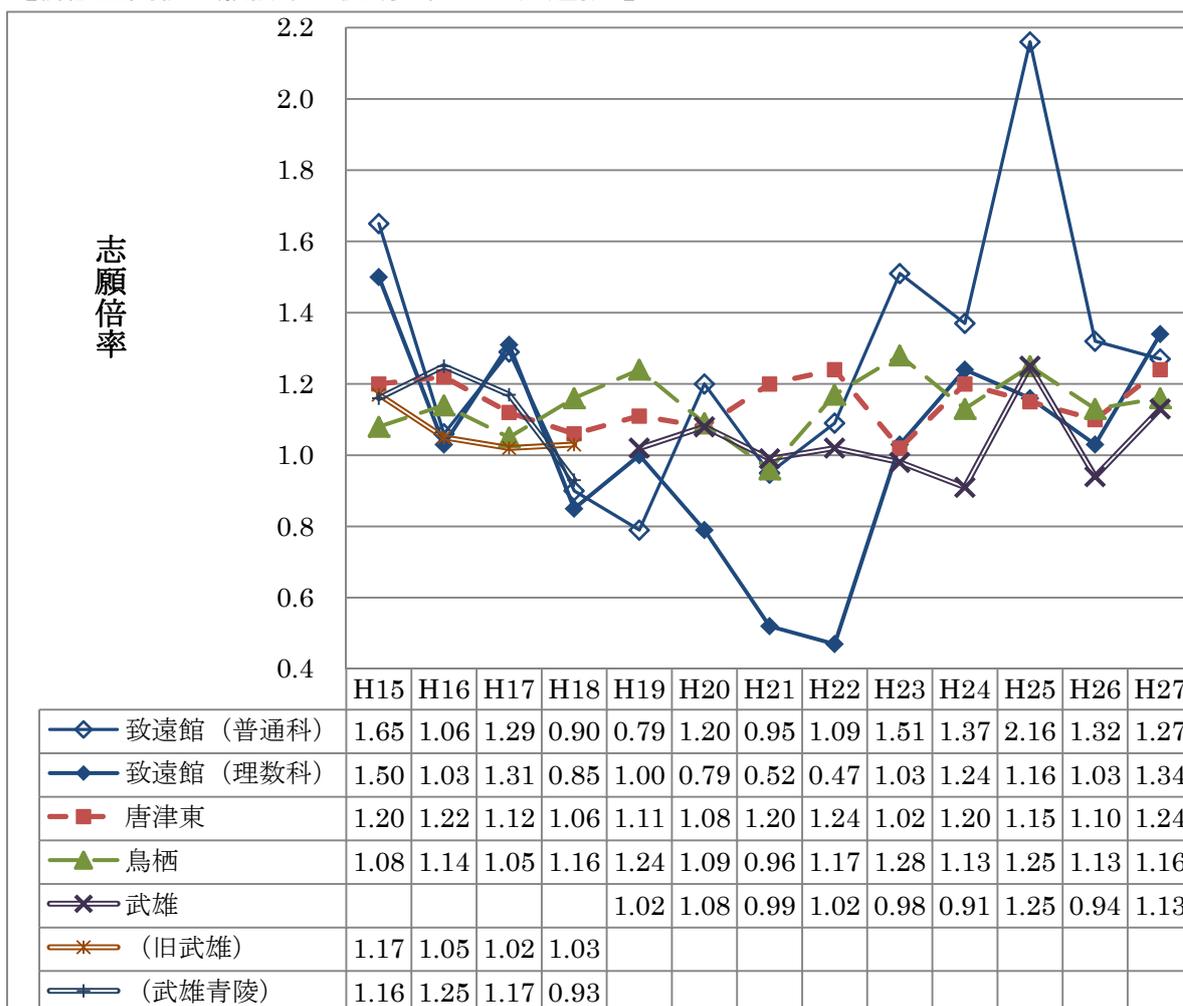
【入学者選抜に係る変更事項】

- ・ 致遠館高校において、平成 23 年度入学者選抜の理数科推薦枠を 40%から 25%に縮小する入試変更を行った。
- ・ 平成 24 年度入学者選抜から、中高一貫教育校のみならず全ての高校で入学者選抜実施方法の変更を行った。主な変更事項は推薦入試の廃止（該当は致遠館高校理数科）と全ての高校で特色選抜（定員の 10～20%を募集）と一般選抜の 2 回の入試を実施することである。

【併設型高校志願倍率（特色選抜）】



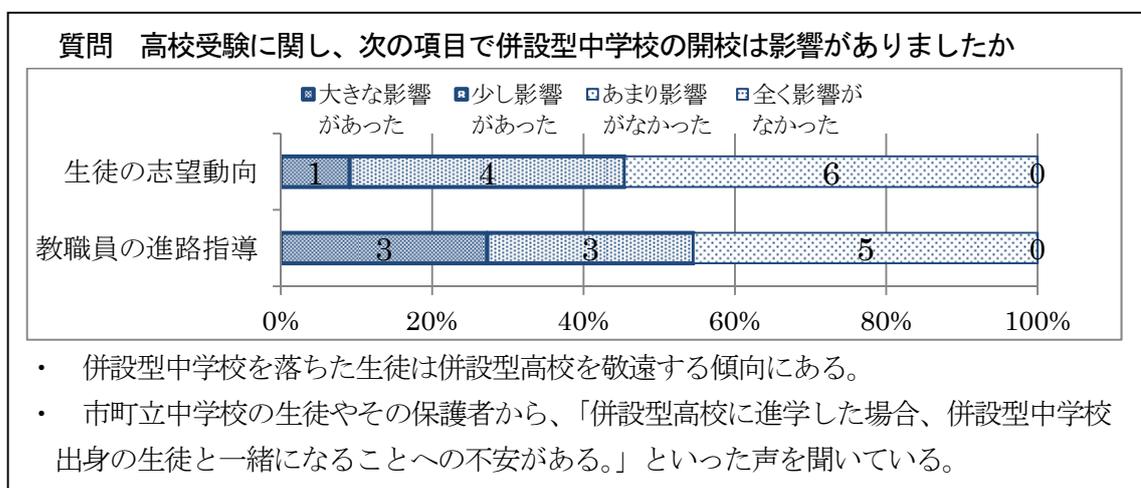
【併設型高校志願倍率（後期入試・一般選抜）】



※ 平成23年度までは後期の倍率、平成24年度からは一般選抜の倍率を示す。

※ 致遠館高校普通科は、開校から平成17年度入学生まで普通科英語コース。その後、平成24年度入学生まで人文コース、平成25年度から普通科となる。

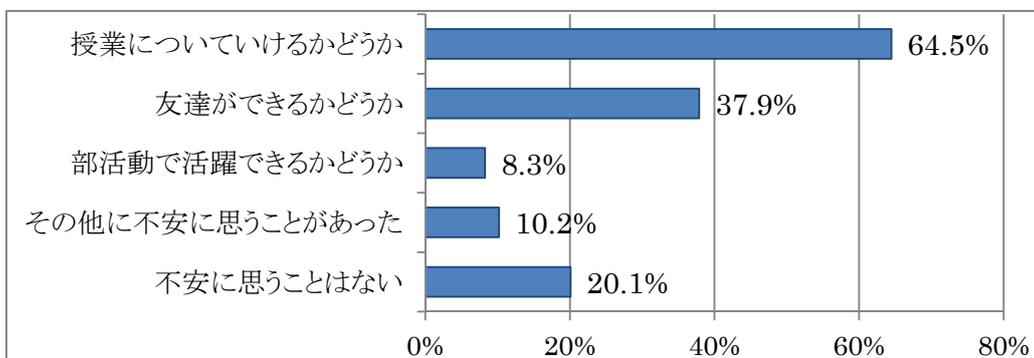
【市町教育委員会への聞き取り調査】



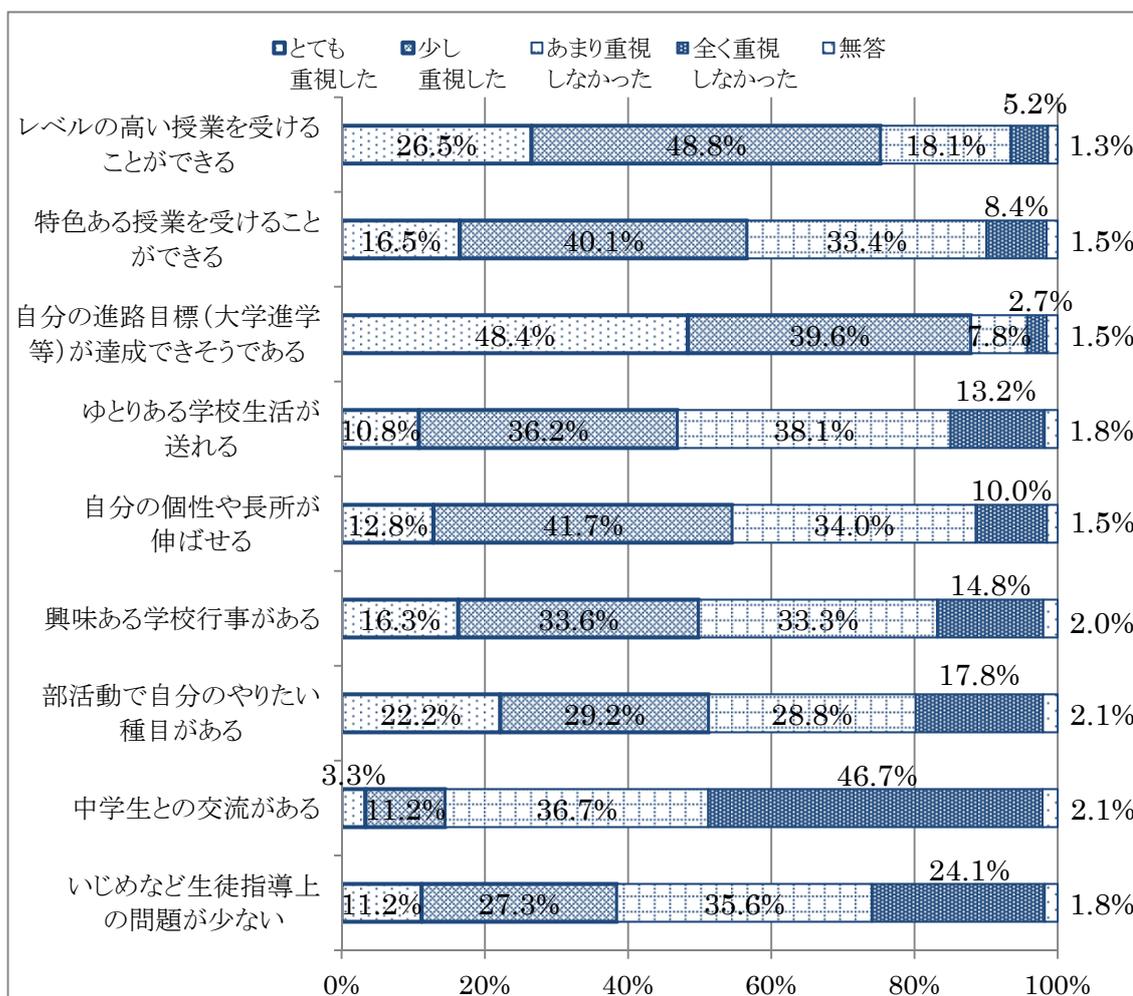
【生徒アンケート⑤】

質問 併設型高校を受検する際、不安に思うことはありましたか（複数回答可）

(p. 15 再掲)



質問 併設型高校を受検するときに、次の各項目をそれぞれどれくらい重視しましたか



おわりに

今回の検証は4校すべての中高一貫教育校において6年間の中高一貫教育を受けた卒業生を出して初めての検証となる。このことから、あらためて中高一貫教育導入の目的に沿った教育内容となっているかを主な検証の視点とした。

検証の視点ごとに成果と課題を整理したが、全ての検証の項目において多くの成果を挙げることができ、「佐賀県の中高一貫教育導入の目的」に沿って概ね良好な成果を収めていると言っていることができる。また、併設型中学校で90%以上、併設型高校では80%以上の生徒が「入学して良かった」と考えており、入学した生徒に高い満足度を与えている。これらのことは、各併設型中高一貫校がそれぞれの役割を十分に果たし、魅力ある学校づくりに向けて努力している結果であると考えられる。

一方、「市町立中学校への影響」や「地域との連携が不十分」、「高校から入学してくる市町立中学校などからの入学者の抱く不安感の解消」といったこれまでの検証からの引き続きの課題や、今回、初めて検証の項目とした中高一貫教育校卒業後の進学状況について「国公立大学や難関大学の合格者数に大きな変化が見られていない」といった課題が挙げられている。

今回の検証で明らかになった成果と課題については、これを今後の中高一貫教育にしっかりと活かしていくことが重要である。明らかになったメリットについては最大限に伸ばし、デメリットについては改善または最小化するような取組が必要である。併せて、これを確実に実施していくための不断の検証も必要になると考える。

今後は、これらの課題の解消に努めるとともに、佐賀県がこれまでに行った入学者選抜等の制度変更の影響や、学校ごとの特色ある教育の成果や課題についてきめ細かく検証を行い、佐賀県が目指す中高一貫教育の在り方について引き続き検討していきたい。